

論文審査及び最終試験結果報告書

| | | | |
|--|-------------------------|-----------|---|
| 課程博士 | 地域社会研究科 地域社会専攻 地域政策研究講座 | | |
| 学籍番号 | 15GR103 | 氏名 | 小野 恭子 |
| 審査委員 <small>(自署又は記名押印)</small> | 主査 | 土井 良浩 |  |
| | 副査 | 小瑤 史朗 |  |
| | 副査 | 北原 啓司 |  |

(論文題目)

**小学校家庭科の生活時間授業の検証
- 生活時間調査の再構築と活用 -**

(論文審査の要旨)

本研究は「生活の自立者」の育成を目指している家庭科教育において、生活行動を数値化することによって客観視し、問題点を見つけ、課題解決してゆくための基盤となる教材として「生活時間」に着目し、小学校家庭科における新たな生活時間授業のあり方・方法を実証的に検討・考察したものである。具体的には、①従来の生活時間調査を批判的に検証して調査方法を再構築し、立地条件や気象条件の異なる複数地域で調査を実施して小学生の生活特徴を明らかにした上で、②この調査データを教材として活用した授業を組み立てて実践し、その学びの内容を明らかにすることを通じて新たな生活時間授業の効果を検証し、③以上の調査と授業で活用した生活時間の記録用紙の有効性について考証をおこなったものである。

本研究の顕著な成果は、第一に、小学生も対象として実施されている既存の生活時間調査の特徴と限界を明確化し、小学生の生活実態を把握しやすい調査方法を構築し、都市部、へき地農山漁村部、降雪地域で調査を実施して小学生の生活特徴を導出している点である。具体的には、平日は学校での生活が中心となり休日に個人の特徴が現れやすいこと、地域の学習施設までの距離や習い事の有無、家族の職業が時間の使い方に影響を与えていること等が明らかにされている。

第二に、以上の生活時間調査データを活用した授業を構築してこれを複数校で実践することにより、従来の授業のような「家族との生活の省察」にとどまらない、新たな学びがもたらされることを見出している点である。「限られた時間をどう使うか、将来のために今何をできるか」等といった生活設計に関する学びや、「自分の住む地域にはどんな特徴があるか」等といった地域理解の促進が可能になること等が明示されている。

公開審査では、授業実践について、1時間という時間内でおこなわれる学習効果の限界についての指摘があり、複数回の授業として実践する場合の構築方法、授業後の実際の生活改善についての振り返りや検証の方法等について質問がなされ、今後の授業実践を通じての研究の継続や本研究の知見の普及について期待を込めた意見も出された。

(最終試験結果の要旨) 最終試験実施日：令和5年8月5日

最終試験では、公開審査での指摘を踏まえ、主に本研究が構築した授業の有効性を高めるための具体策について議論がなされた。複数回の授業モデルの構築や、既存の家庭科教育全体あるいは他教科などと連携したカリキュラムの再編も必要である等の意見が交わされた。また、同様な状況を導くには、本研究でおこなった授業実践を他の多くの教員も取り組めるように研究会などで発表したりする等、普及に力を入れる必要があるとの言及もあった。以上の指摘はあくまで本研究によってもたらされた知見のさらなる発展や普及に関わるものである点が確認され、審査員全員一致で本研究科の学位論文の合格基準に達しているものと判断された。